

## 第2期奈良県食品ロス削減推進計画(案)にかかるパブリックコメントの結果概要

○実施結果の公表期間:令和8年2月2日(金)～3月4日(水)(30日間)

○意見の募集期間:令和7年12月15日(月)～令和8年1月13日(火)

○応募方法:ご意見提出フォーム

○意見の総数:2名(3件)

○問い合わせ先:奈良県食農部豊かな食と農の振興課 0742-27-5424

ご意見について、適宜要約・集約して整理し、それらに対する県の考え方と合わせて以下に示します。

| 意見No. | 該当箇所  | 意見等の内容   | 県の考え方  |
|-------|---|--|--|
| 1     | 4-III<br>その他取組との連携<br>(4)その他の横断的な取組<br>②事業系食品ロス対策に関する新事業アイデアの表彰制度の創設・実践支援 | <p><b>【ご意見等の内容】</b><br/>奈良県内にて醸造を開始しているクラフトビールの醸造所の数は11社。<br/>醸造工程にて排出される「麦芽カス」の大部分は産業廃棄物として処理され、県外へ運搬されているものも存在する。<br/>「麦芽カス」を食品としてアップサイクルし、食品ロスを少しでも削減できる取り組みをお願いしたい。<br/>「麦芽カス」を乾燥させる技術、大量に粉末化できる技術支援があれば、奈良県の畜産業への還元や、パンやケーキ、焼き菓子などにも再利用でき、温室効果ガス低減にも大きく寄与すると考える。</p> <p><b>【上記意見の理由】</b><br/>奈良県内のクラフトビール醸造所の多くは創業間もない事業者が多く、地域の事業者や生産者との繋がりや経験も浅いため、単独で取り組む力を持っていない。技術支援のきっかけ、再利用できる事業者とのマッチングなどの手助けをお願いしたい。</p> | <p>事業系食品ロス削減に関する施策の強化として、企業が取り組む食品ロス対策に関する先進的な取組の発掘・発信や、新事業アイデアの表彰制度の創設、実践の支援を行っていきたいと考えています。</p> <p>上記は計画本文中の「その他の横断的な取組」に記載していることから、計画案の修正は行わないものとします。</p>   |
| 2     | 4-I<br>食品ロス削減に向けた普及啓発   | <p><b>【ご意見等の内容】</b><br/>食ロスの数値化について<br/>奈良県で実際にどれくらいの食ロスがあるのか、限定的なリサーチでも良いと思うので、数字でわかるようにしてはどうか。</p> <p><b>【上記意見の理由】</b><br/>自覚しやすく、動機づけになると思う。<br/>また、取り組みの結果、ロスが減った場合には、取り組み前後の数値を比べることができれば、それも励みになると思う。</p>  | <p>本県の食品ロス量の推移については、奈良県豊かな食と農の振興課HPおよび奈良県食品ロスポータルサイトにて毎年、更新・公表しており、今後も継続していく予定です。</p> <p>上記は計画本文中の「進捗管理」に記載していることから、計画案の修正は行わないものとします。</p>   |
| 3     | 4-III<br>その他取組との連携<br>(2)農業×食品ロス対策<br>農産物の廃棄について                          | <p><b>【ご意見等の内容】</b><br/>規格に合わないという理由で、廃棄処分される野菜があると聞くが、消費者の立場からすると鮮度、栄養、味に問題がなければ、形は食べ方を工夫すればおいしくいただけるので、アウトレット的に流通してほしいと思う。<br/>例えば、正規品は便利な場所で、アウトレット品は消費者が自ら買いに行く場所で、というように棲み分けができると思う。</p> <p><b>【上記意見の理由】</b><br/>食べものが捨てられるのは切ない。</p>   | <p>規格外品等の未利用農産物の活用については、県ではこれまで、農産物直売所で売れなかった未利用農産物を、希望する「こども食堂」へマッチングする取組や、NAFICで生産した農産物を「こども食堂」へ提供する取組等を実施してきたところですが、今後も更に取組を推進していきたいと考えています。</p> <p>上記は計画本文中の「②マッチングシステムの本格実施」、「③6次産業化に取り組む生産者の支援」、「④農産物直売所の支援」に記載していることから、計画案の修正は行わないものとします。</p> |